

キクの病害虫の発生状況（7月中下旬）

1 白さび病

発生ほ場割合は平年よりもやや高い状況でした（図1）。上中位葉で発生がみられる場合は防除を実施してください。また、短い降雨などが長期間続く等の多湿条件が続くと発病しやすくなるので、予防散布を心掛けてください。また、本病は、キクの品種によって発病に差があるので、発病しやすい品種では、防除を徹底してください。

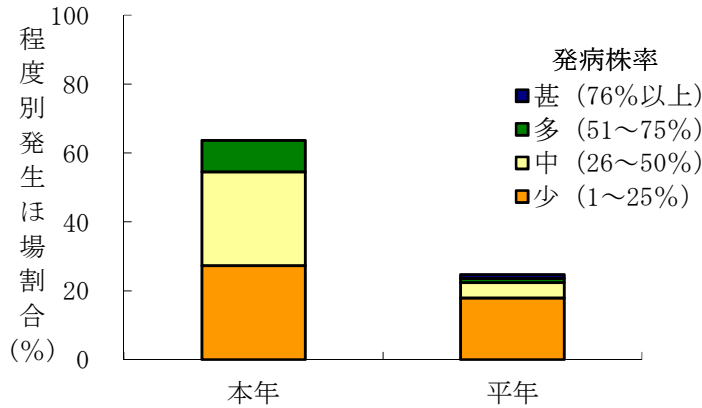


図1 白さび病の発生状況

2 アブラムシ類

発生ほ場割合は平年並でした（図2）。気温の上昇に伴って急激に増殖することがあるので、ほ場をよく観察し、発生が見られる場合は防除を実施してください。

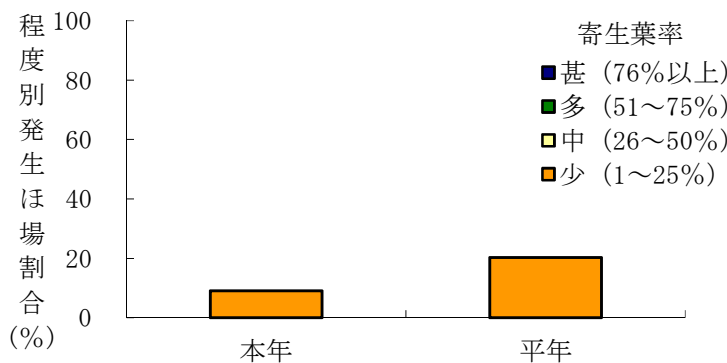


図2 アブラムシ類の発生状況

3 ハモグリバエ類

巡回調査での発生は確認されませんでした（図3）。上位葉に発生が見られる場合は、防除を実施してください。

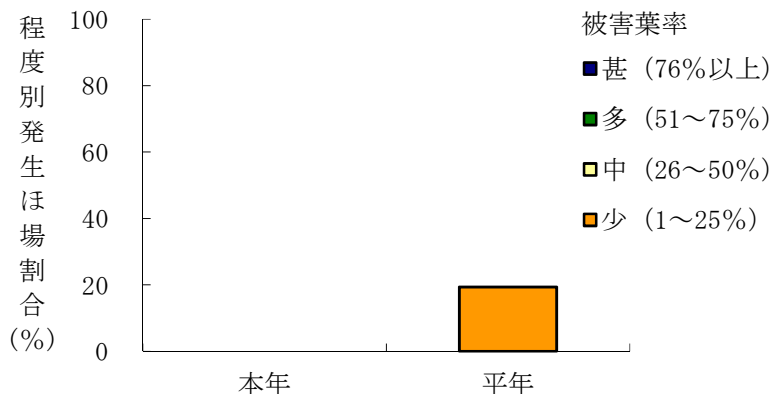


図3 ハモグリバエ類の発生状況

4 アザミウマ類

発生ほ場割合は平年よりやや低い状況でした（図4）。今後気温の上昇に伴って急激に増殖することがあるので、ほ場をよく観察し、発生が見られる場合は防除を実施してください。発生種がミカンキイロアザミウマの場合は、効果の高い薬剤が少ないので、薬剤の選択に注意してください。また、本種はTSWV等のウイルスを媒介するので注意が必要です。

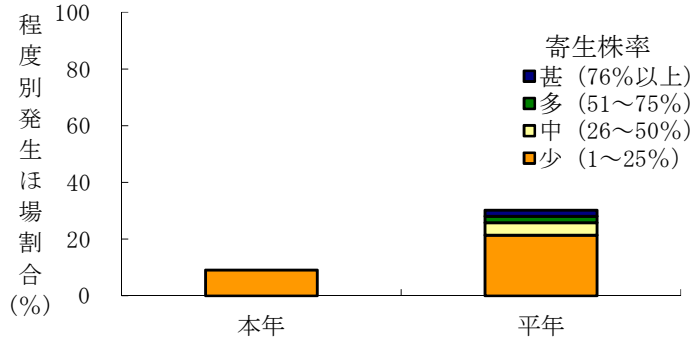


図4 アザミウマ類の発生状況

5 ハダニ類

発生ほ場割合は平年よりやや低い状況でした（図5）。今後気温の上昇に伴って急激に増殖することがあるので、ほ場をよく観察し、発生が見られた低密度時から防除を実施してください。また、薬剤によっては、感受性が低下している可能性があります（表1）。薬剤防除を行った場合には、防除の2~3日後に葉裏を観察し、効果が十分でない場合には、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

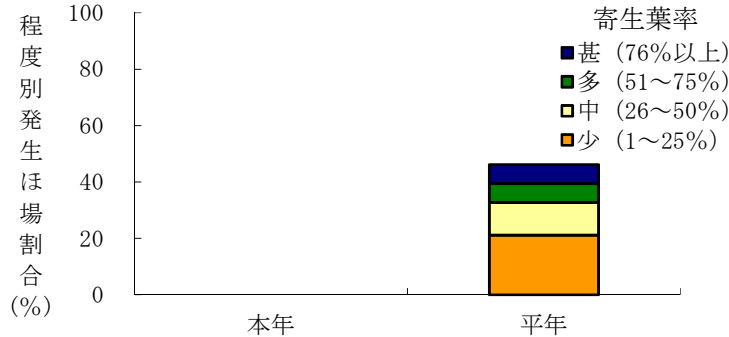


図5 ハダニ類の発生状況

表1 ナミハダニに対する殺ダニ剤の効果

供試薬剤	イチゴ	キュウリ	キュウリ	キク	イチゴ	イチゴ	イチゴ	イチゴ
	2001年 農試	2002年 農試	2003年 農試	2004年 農試	2008年 防除所	2013年 防除所	2015年 防除所	2018年 防除所
アグリメック	—	—	—	—	—	—	—	◎
アーデント水和剤	△	△	△	△	—	△	—	—
アフーム乳剤	—	—	—	—	◎	—	—	—
カネマイトフロアブル	—	◎	◎	◎	◎	◎	○*	◎
コテツフロアブル	△	△	○	△	—	△	—	△
コロマイト水和剤	◎	◎	◎	◎	◎	△	△*	○
スターマイトフロアブル	—	—	—	—	—	—	△*	—
ダニサラバフロアブル	—	—	—	—	—	○	△*	△
ダブルフェースフロアブル	—	—	—	—	—	—	—	△
ニッソラン水和剤	△*	—	△*	—	—	—	—	—
パロックフロアブル	○*	—	○*	—	—	—	△*	—
ピラニカEW	△	△	△	△	—	△	—	—
マイトコーネフロアブル	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎*	◎

注1) ◎:効果高い、○:効果が劣る場合あり、△:効果が劣ることが多い、—:未検定
 (◎:すべての個体群で死虫(卵)率90%以上、○:死虫(卵)率90%以上の個体群が5割以上、△死虫(卵)率90%以上の個体群が5割未満)
 注2) *は、殺卵効果を検定。

6 オオタバコガ

巡回調査で寄生は確認されませんでした(図6)。フェロモントラップ調査では、誘殺数が多くなっています(図7、8)。ほ場をよく観察し、発生が見られた場合には防除を実施してください。

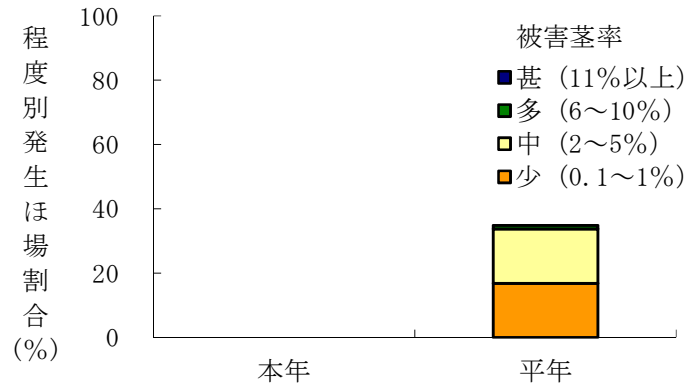


図6 タバコガ類の発生状況

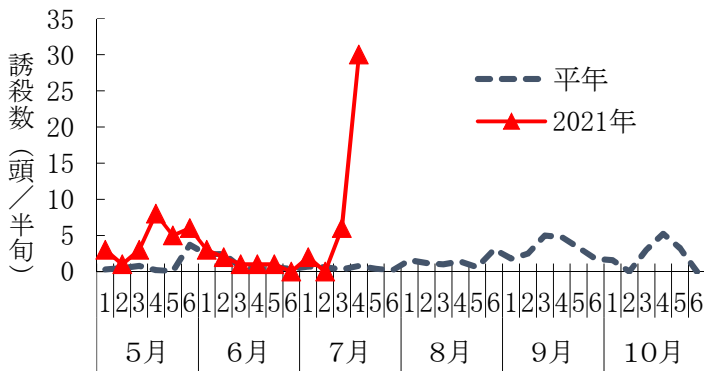


図7 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況
(新地町:キク)

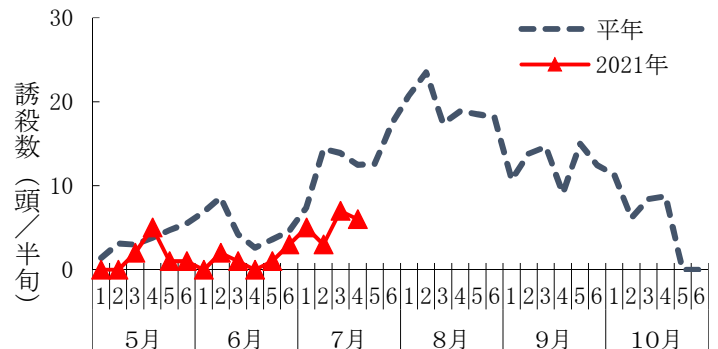


図8 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況
(伊達市保原町:キク)

● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709

Fax:024-958-1727

e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp